

地域に根ざしたお口の健康づくり支援の新展開 ～市民子育て支援ネットワークとの協働～

○赤井綾美, 大橋正和, 吉田弥代, 文元基宝
NPO 法人関西ウェルビーイングクラブ

要約：今回、地域の子育て支援ネットワークが主催する大規模な親子の遊びを中心とした「子育てイベント」に参加する機会を得た。そこで、どのようにヘルシーセッティングな場として健康づくり支援を展開できるかについて新たな実践を試みた。

結果、市民が困り事を気軽に専門家と相談できる場が地域には極端に少なく、現在の保健・医療システムでは満たせない生活ニーズがあることが明らかとなった。（索引用語：健康づくり支援、ヘルシーセッティング、地域）

口腔衛生会誌 57 (4), 2007

目的：

健康な生活者が歯やお口の健康について、どのような関心や悩みを抱えているのかを探り、健康づくり支援を進めるにあたって、地域での口腔保健に関する知識・態度・習慣などの背景にある教育的・環境的なニーズについて明らかにするとともに、地域のヘルシーセッティングな場としての設営や予防啓発、健康教育の実践方法を模索することを目的とした。

対象：

大阪市西淀川区、大阪市淀川区、奈良県生駒市において開催(2006.11～2007.3)された、子育て支援ネットワークが主催する「ファミリーひろば」に会場した親子を対象とした、(3会場あわせて約 2,000 名の来場)

方法：

ヘルシーセッティングな場として、お口の健康を体感する「口腔保健ブース」を3回出展した。ブースでは、「健康増進ゾーン」として、乳幼児歯科健康相談、フッ化物洗口・スプレー体験、咬合力測定コンテストなど、「ふれあいゾーン」として、バルーンアートづくり、歯によい食べ物釣りゲームなどのコーナーを設けた。毎回のプロセス評価をフィードバックし、ヘルシーセッティングな場の模索を試みた。

歯やお口の健康についての相談事について、自記式アンケートとともに、インタビュー形式で聞き取りを行った。また、口腔保健に関する知識・態度・習慣とその背景についての自記式アンケートを行った。

結果：

毎回のプロセス評価とフィードバックにより、回を重ねるごとに「健康増進ゾーン」と「ふれあいゾーン」の両方がうまく噛み合い、3会場で116組の親子のブース参加を得た。フッ化物洗口を実際に体験された親子は3会場あわせて200名を超えた。

3会場でのブース参加親子116組の内、歯やお口の健康についての相談は64件であった。年齢別の相談者の割合は、0歳で57%、1歳・2歳が最も多く70%を超え、3歳では52%から相談があった。4歳では29%と少なくなり、5歳を超えると再び50%から相談があった。

相談内容では、0歳から2歳で「歯みがき」が40%以上、1歳での「むし歯」も40%と多かった。「歯の生え方」については、0歳から5歳以上まで20%前後の相談があった。「歯並び」も1歳から5歳以上まで、20%前後の相談があった。

口腔保健の教育的な背景としては、フッ化物の有用性は理解している親が90%を超えていたが、集団での応用についての理解割合は22%と低かった。環境的な背景としては、40%以上の親子が「かかりつけ歯科医」を持っていない。また、具体的なフッ化物の入手法について、多くの質問が寄せられるなど、実現因子の不足が認識された。

考察：

子どもの歯とお口の相談は0歳から多く、現在の保健・医療システムでは満たせない生活ニーズがあること、市民が困り事を気軽に専門家と相談できるヘルシーセッティングな場が求められていることが明らかになった。

今回の取り組みは小規模で散発的ではあったが、様々な地域ネットワークや団体などの組織との連携・協働を通して、地域でのネットワーク組織の役割やキーパーソンを知ることができた。また、支援する側と参加する側に、それぞれ「学び」がおきるという波及効果もあり、今後の活動展開へのヒントを大いに得ることができた。

これらのことから、今回の取り組みは、地域での健康づくりを充足させるために専門職がなされる支援手段の一つになる可能性があると考えられる。さらに、今後の継続的な支援のためには明確な戦略と教育・環境的な整備が必要であると考えられる。